

2020年9月4日

アジア開発銀行が発行するヘルス・ボンドへの投資について

～途上国の保健・医療サービスの質の向上と
ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ実現への貢献～

大樹生命保険株式会社（代表取締役社長 吉村 俊哉、以下「当社」）は、この度、アジア開発銀行（Asian Development Bank）が発行する豪ドル建ヘルス・ボンド（私募形式、100 百万豪ドル、約 76 億円）の全額を購入しました。

今回の投資は、当社が機関投資家として社会的責任を果たす中で進めている ESG 投融資への取組みの一環であり、アジア開発銀行が初の豪ドル建ヘルス・ボンドとして発行する債券への投資となります。アジア開発銀行が発行するヘルス・ボンドは、開発途上加盟国における全般的な保健・医療サービス支援に加え、新型コロナウイルスに係る保健・医療関連の支援にも充当されるものです。

アジア開発銀行は長期戦略「ストラテジー2030」の中で「今なお残る貧困への対応と不平等の是正（Addressing Remaining Poverty and Reducing Inequalities）」を7つの優先課題の内の1つに挙げており、開発途上加盟国が行政および民間の医療サービスの質と範囲を改善することによってユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（※）を達成するための支援を行います。

当社では、過去にも環境債（グリーンボンド）や社会貢献債（ソーシャルボンド）、ESG投信などへの投資を行ってきました。今後も引き続き生命保険会社としての社会的責務をふまえ、資産特性に応じて環境・社会・ガバナンスの課題を考慮した資産運用を行い、環境や地域・社会と共生し、経済・企業の安定的な成長と社会的価値の調和的な発展を目指します。

記

1. 本債券の概要

発行体	アジア開発銀行
格付け	Moody's 格付：Aaa、S&P 格付：AAA
投資金額	100 百万豪ドル（約 76 億円）

（※）ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（Universal Health Coverage：UHC）とは、「全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健・医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」を指します。

2. アジア開発銀行について

アジア開発銀行は極度な貧困の根絶に向けた取組みを続けながら、豊かでインクルーシブ、気候変動や災害等によるショックに強靱で持続可能なアジア・太平洋地域を実現することを目指しています。アジア開発銀行は 1966 年に創設され、68 の加盟国・地域（うち 49 カ国は域内の加盟国・地域）によって構成されています。



3. アジア開発銀行が取り組むプロジェクト例

(1) インドネシア：新型コロナウイルス緊急対応および支出支援プログラム（COVID-19 Active Response and Expenditure Support = CARES プログラム）

CPRO (COVID-19 pandemic response option) を通じて資金支援が行われる CARES プログラムは、既存の社会援助プログラム拡大や COVID-19 の予防と拡散防止のための対策、生産部門および雇用者の景気後退からの保護などを目的とした、インドネシア政府の景気刺激策をサポートするものです。CARES プログラムは、インドネシア政府に迅速なサポートを提供することで、新型コロナウイルス・パンデミックが公衆衛生、生活および経済に対する影響を軽減することを目指します。



[写真提供：ADB Photo Library]

(2) パプアニューギニア：保健・医療サービスセクター開発プログラム

本プログラムでは、農村部における医療機関の連携を高める総合的公共衛生モデルの普及を支援すると共に、保健・医療サービスを広範に提供するため、公共財政運営に係る人員の能力開発への資金支援を行っています。また、保健・医療サービスの提供を強化するため、農村部の医療インフラを立て直し、医薬品の供給を増やし、保健・医療分野での新たなパートナーシップを支援するとともに、スマート・テクノロジーを活用したシステム支援を行っています。



[写真提供：ADB Photo Library]

[本件と関連性の深い SDGs テーマ]

目標 3： すべての人に健康と福祉を



[関連するアジア開発銀行優先課題]

今なお残る貧困への対応と不平等の是正



以上